

じゃっど

平成12年 12月 25日

会員の皆様お変わりありませんか？

先日のNHKのニュースでも報道されましたように ラオス国は社会主義国として独立25周年目を迎えました。ヴィエトナム戦争（ラオスではアメリカ戦争と呼んでいます。）が終わり25年経ったということですが、地雷がたくさん残ったままです。あの有名な北爆の2倍量の爆弾がラオスに落とされたと言われています。山の中の村では、地雷や不発弾に触ってしまい手足を無くす人が今も絶えません。ヴィエンチャンの街中でも不発弾はたくさん埋まったままです。、日本の JICA（日本国際協力事業団）事務所には、3年ほど前に新事務所建設した際を、出て来た不発弾を数個展示してあります。私も、不発弾から火薬を抜き、作ったバケツとか、野菜用のプランターなど、たくさん見ました。地雷、不発弾の除去作業が少しずつ進められています。

前回のじゃっど新聞でお伝え致しましたが、ラオスで爆弾テロが相次ぎ、8月に予定していた日本人教師を交えた学校保健セミナーは延期しました。11月恒例のじゃっどツアー（タツルアン祭り参加）は中止しました。タツルアン祭りと、12月の独立記念事業が危ないと言われていたのですが、大事故が無くよかったです。しかし、ビエンチャン市周辺では、今も月に1回くらい爆弾テロが発生しているようです。テロの対象が何なのかが、はっきりせず、したがって対策が決まりません。ただ、それほど強い爆弾ではないのが救いです。

タイの経済バブルがはじけて以来、ラオスに貧富の差がでてきました。それまでは、国民皆が貧乏だったのです。ラオスの経済が落ち込むと、換金レートがどんどん変わっていき、ドルが、去年の8月にはそれまでの10倍の価値を持つまでになったのです。外国に親戚のいる人達は送金を受けて、大きな家を建てました。外国に親戚のいない人達は、インフレに苦しみ、ますます貧しくなって行きました。それまで、見なかった子供のこじきを見かけるようになりました。このような経済状況が、治安を不安定にしているのでしょうか。

最近のラオスの貧しさをしていただくのに、1通のメールを紹介します。ラオスで JICA 専門家として、ポリオ根絶、母子保健の仕事をしている黒岩宙司さん（医師）から届いた「初体験」です。黒岩さんはラオスとは、もう10年近いつきあいで、ここ6年くらいは、ラオスに滞在していらしゃいます。

初体験、うだるような夏の甘い刹那というのが定番だが北のシェンクワンでの初体験は凍えるような夜の瞬時の出来事だった。一年ぶりに訪れた北の町は、道路工事とフランスやオランダ、アメリカ、日本からの冒険好きの観光客が目立ち、埃っぽい町並はどこか白黒映画の西部劇の町を連想させた。定宿は改装中で、入り口に無造作に飾られた米国がベト

ナム戦争中に落とした各種爆弾が、昔の宿の面影を保っていた。6時から11時の配電中でもジェネレーターに頼るせいか、電圧が変動し何度か電気が切れた。闇の中を行きつけの店に行ったが、初体験はそのレストランで起きた。夕食の後にパソコンを開いていたのだが、気がつくと入り口に4人くらいの男の子が店の中を伺っている。闇を背景に瞳が小動物のように光っている。何をやっているのだろうと思ったとたん、風が立つように少年たちは僕のテーブルに近寄り、パソコンの向こう側に押しやった食器に残したポークと鶏の残りを、汚れた手でさらいだした。見事なチームワークで、誰かの目が店の奥と外をうかがい、誰かの手が残飯をかすめた。驚く僕を尻目に、少年たちはやはり風のように去っていった。危害はなかった。昼間行ったモン族の貧しさがまぶたに重なったが、彼らの容姿は山岳民族には見えなかった。「民族による保健へのアクセスの差はきわめて明瞭」。液晶画面の文字が白々しい。初体験は本当に甘味なものだったのだろうか。星明りの下を宿に戻りながら、久しぶりの意外な初体験に心が騒いだ。

不発弾、地雷、爆弾事件と聞くと、大変危ない国のように聞こえますね。実際住んでいる人達は、ほとんど危機を感じていないようです。日本が安全過ぎるのでしょうか。また、ラオスの人達がのんびりしすぎて、住んでいる外国人ものんびりした性格になってしまいますのでしょうか。黒岩さんからのメールに、想像をこえるのんびりさ？が載っていましたので、これも紹介します。

靈感の強い某専門家夫人K子さんがしみじみと言った。「ラオスは本当に気が休まるわ。ラオスに住んで二年になるけど、ちっとも霊を感じないの。日本では訳ありのところに行くと、かならず霊の呪いのようなものを感じて眠れないことが多かったのに、この国には霊がないのかしら。ほんとうに楽だわ」。しかし革命時にはメコン川は血で染まったと聞く。彼らに恨みはなかったのだろうか……。この話をやはり靈感の強い専門家A子さんにしてみた。彼女は自分の身体が感じすぎることに悩んで数ヶ月前にタイの寺に一ヶ月こもり、そこで竜を見たと言う尊敬すべき人物だ。「たしかにラオスには質の悪い霊はいないですね。ピーはいるけど、それもだまされた男を誘いに来るくらいですよ」。僕にはそれも随分と怖い気がするが、A子さんは「輪廻思想」のためかもしれないと分析する。ラオスには寺と坊さんがやたらと多く、男性は生涯に一度は頭を剃り寺に入り、毎朝、托鉢の行列に加わらなければならない。夜中に境内を近道すると、たまにニキビづらの年若い坊主が、オレンジの袈裟を着て、人目を気にしながら禁を犯し、ガールフレンドと語り合ったりしている。「信じていないと若い人はいいながら、意識の底に輪廻はあるみたいです」とA子さんは結論した。数日前に「貧困対策」専門家が、ラオスで調査を開始したところ、ラオスには貧困の概念さえないことが判明したと言うのを聞いて、K夫人とA子さんの話を思い出した。貧困と感じていなくて、幸せなら、貧困対策なんて必要がないんじゃないですか？と思わず言ったら、そうですね、と笑っていた。貧困対策の質問表の項目に「輪廻を信じますか？」などありそうもない。

じゃっど国内活動

じゃっど広報誌（９月１０日号）に記載致しましたように１０月、１１月は県内のイベント、会合に会員の皆様にお手伝いいただきました。また、帖佐会長は、宮崎県（高鍋町）、鹿児島県（川内市）でじゃっどの活動を報告しました。

以下、各イベント参加者の皆様の感想などをご報告致します。

ボランティア貯金報告会（１０月７日 高鍋中央公民館）

報告者：帖佐理子（じゃっど会長、事務局長）

ボランティア参加者（敬称略）：小幡順子、帖佐徹

* 当日、延岡市から河野章さんが会場にかけつけてくださいました。

ラオスの風景（メコン川、田植えの様子、でこぼこの道、果物屋の店先、道路を歩く象、など）のスライドで、ラオスの生活を見てもらいました。その後、「じゃっど」の活動として、ラオスの医師による学校健康診断、セミナー、トイレ建設、学校建設などを紹介しました。

じゃっどの活動の中には、会員の方々からの寄付のみで行っているものと、郵政省ボランティア貯金に係る寄付金からの援助（POSIVA）を頂いているものがあります。セミナー、健康診断には POSIVA からの資金を主に使っています。毎年 10 月をボランティア貯金の月として、郵政省が POSIVA の配分を受けている団体に、報告するよう連絡があります。鹿児島県では、最近じゃっどだけです。これまでに鹿児島市、川内市、出水市、隼人町、串木野市、枕崎市で報告をしてきました。今年は宮崎県には配分を受ける団体がなかったため、じゃっどが宮崎まで出て行きました。

郵便局の貯金をして、ボランティア貯金の登録をしてくださっていても、POSIVA の事をご存知ではない方がたくさんいらっしゃるようです。そういう方々に、おかげさまで、ラオスの先生達が保健の知識を得ることができました。ラオスの子供達が健康診断を受けました。ありがとうございます。とお話してきました。また、「じゃっど」の会員の方々のご寄付で、机いすが増えたこと、自費のツアー参加で、活動の現状を視察していることも報告いたしました。

これからも、「じゃっど」の活動をご理解いただき、POSIVA にそして「じゃっど」にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

（帖佐理子ちょうさみちこ）

ナム戦争中に落とした各種爆弾が、昔の宿の面影を保っていた。6時から11時の配電中でもジェネレーターに頼るせいか、電圧が変動し何度か電気が切れた。闇の中を行きつけの店に行ったが、初体験はそのレストランで起きた。夕食の後にパソコンを開いていたのだが、気がつくと入り口に4人くらいの男の子が店の中を伺っている。闇を背景に瞳が小動物のように光っている。何をやっているのだろうと思ったとたん、風が立つように少年たちは僕のテーブルに近寄り、パソコンの向こう側に押しやった食器に残したポークと鶏の残りを、汚れた手でさらいだした。見事なチームワークで、誰かの目が店の奥と外をうかがい、誰かの手が残飯をかすめた。驚く僕を尻目に、少年たちはやはり風のように去っていった。危害はなかった。昼間行ったモン族の貧しさがまぶたに重なったが、彼らの容姿は山岳民族には見えなかった。「民族による保健へのアクセスの差はきわめて明瞭」。液晶画面の文字が白々しい。初体験は本当に甘味なものだったのだろうか。星明りの下を宿に戻りながら、久しぶりの意外な初体験に心が騒いだ。

不発弾、地雷、爆弾事件と聞くと、大変危ない国のように聞こえますね。実際住んでいる人達は、ほとんど危機を感じていないようです。日本が安全過ぎるのでしょうか。また、ラオスの人達がのんびりしすぎて、住んでいる外国人ものんびりした性格になってしまいますのでしょうか。黒岩さんからのメールに、想像をこえるのんびりさ？が載っていましたので、これも紹介します。

靈感の強い某専門家夫人K子さんがしみじみと言った。「ラオスは本当に気が休まるわ。ラオスに住んで二年になるけど、ちっとも霊を感じないの。日本では訳ありのところに行くと、かならず霊の呪いのようなものを感じて眠れないことが多かったのに、この国には霊がないのかしら。ほんとうに楽だわ」。しかし革命時にはメコン川は血で染まったと聞く。彼らに恨みはなかったのだろうか……。この話をやはり靈感の強い専門家A子さんにしてみた。彼女は自分の身体が感じすぎることに悩んで数ヶ月前にタイの寺に一ヶ月こもり、そこで竜を見たと言う尊敬すべき人物だ。「たしかにラオスには質の悪い霊はいないですね。ピーはいるけど、それもだまされた男を誘いに来るくらいですよ」。僕にはそれも随分と怖い気がするが、A子さんは「輪廻思想」のためかもしれないと分析する。ラオスには寺と坊さんがやたらと多く、男性は生涯に一度は頭を剃り寺に入り、毎朝、托鉢の行列に加わらなければならない。夜中に境内を近道すると、たまにニキビづらの年若い坊主が、オレンジの袈裟を着て、人目を気にしながら禁を犯し、ガールフレンドと語り合ったりしている。「信じていないと若い人はいいながら、意識の底に輪廻はあるみたいです」とA子さんは結論した。数日前に「貧困対策」専門家が、ラオスで調査を開始したところ、ラオスには貧困の概念さえないことが判明したと言うのを聞いて、K夫人とA子さんの話を思い出した。貧困と感じていなくて、幸せなら、貧困対策なんて必要がないんじゃないですか？と思わず言ったら、そうですね、と笑っていた。貧困対策の質問表の項目に「輪廻を信じますか？」などありそうもない。

たし、今さらながら“あそこはもっとこういう風にすれば良かったのかな、”と思う部分もあったので、もしまた機会があれば今度は今回よりはお役にたてるように頑張りたいと思っています。



向かって左から太田さん、豊平さん、帖佐さん、坂上さん



イベント開催中の売上金（小物、布など）は、31530 円でした。ラオス活動費に致します。

「かごしま地球人フェスタ」に参加して

坂上 恵子

11月18日、19日に鹿児島県本港区緑地公園にて、「かごしま地球人フェスタ」が開催され、JADDOのコーナーも設けられるということで、お手伝いに出かけました。

他にも「農林水産まつり」などのイベントもあり、好天にも恵まれ、家族連れ等で賑わっていました。また、県内で活動している他のNGOのグループも、たくさん参加しており、理子さんと知り合いの方も多く、皆さん、志は1つなのだなあと感じました。

私は、理子さんとは、幼稚園以来のご縁ですが、今回数年ぶりにお会いできて、昔と全然、変わらない、にこやかで、穏やかな語り口が、なつかしく、楽しいひとときを過ごしました。

高校時代の彼女は、リーダーシップもあって、いろいろな行事の中心的な役割を果たしていました。また自宅に、留学生がホームステイする度に、その英語力をいかに発揮していました。私にとって頼りがいのある友人です。

イベントで外国の方とお話している理子さんの横で、英語から、かなり遠ざかっている我が身を反省することでした。

JADDOのコーナーでは、パネル展示の他に、ラオスの織物や小物も販売しましたが、美しい手織の布には感嘆の聲が上がり、テーブルセンターなどは、すぐに完売致しました。

私自身も、ラオスのことについて改めて知ることができたり、JADDOのメンバーの方々とお話できて、良い経験になりました。皆さんも、機会があったら、ぜひ、JADDOのイベントに参加してみてください。

いつも、「じゃっど通信」を家族で、楽しく拝見していますが、我が家の中、高生の息子たちにも、国際交流を身近に考える機会になっているのではと思います。

もうすぐ21世紀、これからは、益々、グローバルな視点が求められる時代ですが、子供たちの輝く笑顔のために、私たちができることは何なのか、問われている気がします。

純心大学大学祭（10月28日、29日）

ボランティア参加者（敬称略）；南恭子、藤本英雄、小幡順子、岩月洋孝、佐藤章子、
帖佐理子、宮脇美智子、

川内純心大学祭に参加して（小幡順子）

さる10月28、29日の両日、川内純心大学における大学祭に川内郵便局のコーナーをお借りしてパネル展を行ないました。（昨年のパネル展で使用したパネルの再活用です。）すぐ横には川内郵便局の手作りハガキのコーナーがあり、そちらに参加される方やにぎやかさに興味を持たれた方などがじゃっどのパネルをご覧になっていました。

ご覧になっている様子を見てみると、大きく二つのタイプに分かれるようです。「ボランティア」に興味があり色々質問される方、そして「外国・ラオスという国」に興味を示す方というようなぐあいです。「ボランティア」に興味がある方は、すぐにパンフレットを請求され、人によってはいくらかの寄付をいただけます。一方、「外国・ラオスという国」に興味を示す方というのは、興味関心はあるのだが、TVや写真などの映像の中のことであって、別の世界のことなので自分には関係ないと思っていることが伝わってくるのです。

自分の生活が苦しいこの経済状況において、ほかの国・地域に手を差し伸べるというのは大変なことかもしれません。しかし、物事を考えるとき「自分」単位だけでなく、「国」だったり、「地球」だったり、「世界」だったりで考えることも大切なのではないのでしょうか。最終的に「自分」単位で行動するにしても、その前に一時でも「世界」単位で物事を考えられたら、どんなにすてきなことでしょう。その手伝いをするのも、「じゃっど」の仕事のひとつに出来たらいいと思うのです。（その一方で、もっと活動基金が集まればもっとうれしい～）

ボランティア講演会（11月25日）

報告者：帖佐理子

参加者：久木野勲、佐藤章子、小幡順子、帖佐徹、宮脇美智子、

昨年は、指宿市で開催され、会員の山本さんが報告してくださいました。郵便局主催で、会場には郵便局の国際ボランティア貯金に協力してくださっている方々が多く講演を聴きにくださっていました。ただ、川内市内の会員の参加者が少ないのが残念でした。

じゃっどの報告会の前に、国際ボランティア推進協議会会長であり、じゃっどの会員でもある川内市長の森卓郎さんが、11月に全国の11市町村長代表によるタイ国への視察（国際ボランティア活動状況）に行かれたときの様子などお話されました。シェア（国際保健協力市民の会）、SVA（社団法人シャンティ国際ボランティア会）、セーブザチルドレンジャパン（社団法人）、の3団体の活動状況をわかりやすくお話され、配分金が海外で有効に使われている事を体験をもとに報告されました。そして、じゃっどのラオス国での地道な活動にご理解をいただきました。（宮脇）

【事務局からのお知らせ】

感謝の気持ちとともに、ご支援ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきます。

(以下敬称略)

新規会員 (2000 年 8 月～2000 年 11 月)

瀬戸口正昭、青崎シズ子、内村キミ、有村英子 (川内市)、牧之角朋子 (日置郡)、神川輝彦 (鹿児島市)

平成 12 年度会費 (2000 年 9 月～ 2000 年 11 月)

菱刈昭郎、菱刈明子、濱田優子、山陸裕康、木原兼博、川南順恵、瀬戸口正昭、桐原圭一郎、西谷ひとみ、有村英子、土川京子、上脇ゆきみ (川内市)、牧之角朋子 (日置郡)、神川輝彦、米山史朗、米山晃代 (鹿児島市)、宇津木和夫、阿部雅昭、阿部貴美子 (東京都)、堺本要二郎、西村洋子 (熊本市)、鳥山信子 (千葉県)

寄付 (机、いす募金)

飯田トメ、飯田和みつ、田原政子 (川内市)、春田良彦、春田ミエ (始良郡)、神川輝彦、豊平安子、坂上恵子 (鹿児島市)、宇井豊 (東京都)、西村洋子 (熊本市)、和泊郵便局 (大島郡)

寄付 (現金)

阿部雅昭、阿部貴美子 (東京都) 川南順恵、小幡順子、帖佐理子 (川内市)、藤本英雄 (出水郡)、松永武志 (阿久根市)

寄付 (官製はがき、じゃっど広報誌郵便用の封筒)

尻無浜むつみ (串木野市)

* 尻無浜さんは、今回は事務所までわざわざ官製はがき 100 枚、郵便用封筒 100 枚を届けてください、今回は郵便にて官製はがき 100 枚、封筒 200 枚お送りくださいました。さっそく、じゃっどニュースレター郵送、はがきによる会費確認の為に使わせていただきました。

* まだ会費を納入されていない会員の皆様は早めに納入をお願いします。

* 机、いす募金は募集中です。

～～ 納入方法 (いずれかの方法をお願いします) ～～

1、郵便振替 口座番号 02050-2-4746

口座名称 じゃっど

2、現金払い 若松記念病院となり寿泉堂じゃっど事務局まで

3、会費自動引き落とし 郵便貯金口座

じゃっど事務局

電話; 0996-27-0193

ファックス; 0996-27-0193

e-mail asianoko@ml.satsuma.ne.jp

鹿児島県川内市神田町 11-20 若松記念病院 事務局; 帖佐理子、宮脇美智子